

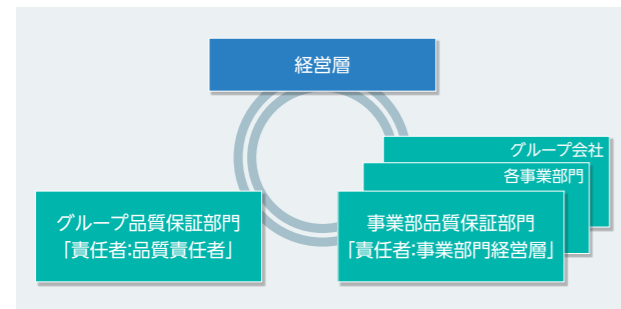
## 品質・生産への取り組み

OKIグループは「常にお客様にご満足いただける商品をご提供します」という品質理念のもと、お客様を「モノづくり・コトづくり」の中心に考え、商品・サービスを、安全や使いやすさに十分配慮して開発・生産・提供するための取り組みを進めています。

### ●品質活動の取り組み

OKIグループにおける商品の品質保証は、商品ライフサイクルに関するすべての部門、従業員の活動によって実現しています。グループ全体を見るグループ品質保証部門と、事業単位の品質機能としての事業部門別の品質保証部門が連携してグループ全体の品質保証活動を行っています。

#### 品質保証の体系



#### 品質方針に基づく品質改善活動

OKIは品質理念のもと、グループ共通の品質方針を掲げ、組織横断での品質改善活動に取り組んでいます。継続的に取り組む「品質不正の防止」については、前年度にOKIおよび生産子会社の全従業員を対象に実施したアンケート調査結果を踏まえ、2020年度に生産拠点を中心とした現地調査を行い、不正の土壤や兆しがなかなどを確認しました。不正発生リスクの低減や品質改善に向けた各拠点の活動は、グループ全体の全社品質連絡会などを通じて共有し、水平展開を図っています。

品質理念(概要)	
常にお客様にご満足いただける商品をご提供します	
2021年度OKIグループ品質方針(概要)	
1. 品質不正防止の徹底	関連法令・規格・お客様との約束・自主基準を遵守し、不正を生まない風土を育む
2. 改善活動の継続	地道な改善の積み重ね、お客様視点に立った行動により、お客様の満足・商品品質の向上を目指す
3. ノウハウ・技術の継承	自らの経験だけでなく、他者の経験からも学び、ノウハウ技術を次代のOKIにつなぐ
Webサイト「品質への取り組み」 <a href="https://www.oki.com/jp/quality/">https://www.oki.com/jp/quality/</a>	

### ●ノウハウ・技術の継承

OKIでは、各生産拠点の担当者が日々の改善活動を発表・表彰するサークル活動を実施しています。また、グループ全体を対象に年1回開催する「生産・品質改革大賞発表会」では、良い取り組みを表彰・共有し、水平展開・継承を図っています。



リモートで実施した生産・品質改革大賞発表会の様子(2020年12月)

### ●安全・使いやすさへの取り組み

OKIグループでは、「商品安全基本方針」のもと、自社での活動はもちろん、お取引先との契約に安全要求を盛り込むなど、さまざまな側面から商品安全に取り組んでいます。また「バッドニュースファースト」をキーワードに、品質問題発生時の迅速な対応をルール化し、原因となった事象の是正および再発防止が完了するまで、その進捗を管理しています。

使いやすさへの取り組みとしては、「ユニバーサルデザイン」を、「ユーザビリティ(基本的な使いやすさ)」と「アクセシビリティ(高齢者や障がい者などへの配慮)」という2つを高いレベルで実現し、すべてのお客様に効果的・効率的に、満足してご利用いただける状態と定義して、検証実験などを通じて集めた利用者の意見を商品・サービスに反映しています。

### ●モノづくり基盤強化プロジェクト活動

OKIグループでは、「お客様にとってのモノづくりとは何か」という視点に立ち、成長への土台作りとして、モノづくり基盤の見直しを開始しました。従来の事業ごとに最適化された開発環境は、エレキCAD、メカCAD、部品技術情報システム、PDMなどの開発ツールを統一することにより標準化を進め、生産環境は生産管理システムなどのIT統合により業務プロセスの標準化を推進しています。また環境対応・各種法規制対応の標準化に加え、設計者のスキルアセスメントの標準化を進めることにより、人財の育成・有効活用に取り組んでいます。

## サプライチェーンにおける取り組み

ステークホルダーの声にお応えして公正な企業活動を推進していくためには、お取引先の協力が不可欠です。OKIは「OKIグループ資材調達方針」において「公明正大で差別のない取引先選定」「CSRに配慮した調達活動」「適正な品質・コストの追求と資材の安定調達」を調達活動の基本的な考え方として公表し、お取引先との信頼関係構築に努めています。

### ●法令遵守の取り組み

OKIは、「OKIグループ行動規範」に則り、公明正大で差別のない取引先選定と、誠実かつ公正な取引の実施に努めています。適正な調達活動を行うため、毎年2回「購買法務研修会」を実施し、子会社を含めた資材・調達関連部門の担当者を対象に、下請代金支払遅延等防止法をはじめとする関連法令やOKIグループの施策に関する教育・情報共有を行っています。2020年度は9月と3月に購買法務研修会をオンラインで開催し、延べ241名が参加しました。

### ●CSR調達の推進

OKIはお取引先へのCSRガイドラインとして、「OKIグループサプライチェーンCSR推進ガイドブック」を定め、本ガイドラインに基づき、国内外のお取引先へセルフアセスメント調査票によるCSR調査を実施しています。また国内のお取引先へは、訪問によるCSRの取り組みの確認も行っています。

2020年12月には、このガイドブックをJEITA(社団法人電子情報技術産業協会)が2020年3月に公表した「責任ある企業行動ガイドライン」に準拠して改版しました。人権・労働、安全衛生、環境、公正取引・倫理、品質・安全性、情報セキュリティ、事業継続計画、管理体制の構築などの項目を含みます。併せて、お取引先へのセルフアセスメント調査票も改版し、本調査票で調査を実施しています。調査結果は各社にフィードバックし、必要な是正などを願っています。今後も、ESGに対するステークホルダーの関心のさらなる高まりを踏まえ、CSR調査における調査内容の拡充、見直しを進めています。

### ●調達BCP(資材の安定調達)

OKIグループは、社会インフラを支える商品を数多く提供しています。こうした事業における資材の安定調達のため、調達BCPの仕組みを整備しています。近年の台風、豪雨といった自然災害の頻発も受け、グループ共通の手順書を策定し、お取引先の製造拠点所在地の定期的な調査、有事の連絡方法改善など災害発生に備えています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延、甚大な

被害をもたらした令和2年7月豪雨、2021年2月の福島県沖地震の発生を受け、OKIグループ各社でお取引先と連絡、調整を重ね、サプライチェーンを維持してきました。新型コロナウイルス感染症の発生影響の対策では、お取引先に加え二次以降の材料メーカーを含め約2,000社に対して工場の稼働状況、納期への影響などサプライチェーン上の確認を実施しました。同時に、新型コロナウイルス感染症の拡大による従来の慣行や働き方の変革に対応すべく、仕組みの改善にも取り組んでいます。一方で2020年度後半からは、テレワークの拡大、ライフスタイルの変化によるパソコン、サーバー需要の増加、および自動車などの需要急回復に伴い、半導体をはじめとする世界規模での資材不足が顕在化しています。引き続きお取引先と連携し資材確保に努めていきます。

### ●お取引先との信頼関係構築

2020年7月、OKIは経済産業省の働きかけによる「パートナーシップ構築宣言」を策定・公表しました。サプライチェーン全体での付加価値向上を図るとともに、新型コロナウイルス感染症の影響などによる中小企業・小規模事業者への取引条件のしわ寄せを防止するため、経済界・労働界の代表および関係閣僚をメンバーとする「未来を拓くパートナーシップ構築推進会議」により導入された枠組みに賛同し、サプライヤーとの新たな連携を進めることで、相互の付加価値向上、サプライチェーン全体の共存共栄を目指すものです。

OKIグループは、サプライチェーンにおけるパートナーとしての信頼関係を構築するとともに、法令・社会規範の遵守、環境保全などESGの取り組み推進においても、サプライヤーとの連携を強化してきました。「パートナーシップ構築宣言」の枠組みは、こうした取り組みの主旨に沿ったものです。この宣言では、サプライチェーン全体の情報共有・可視化による業務効率化を行うこと・購買計画の共有により相互に連携した付加価値向上に取り組むことをあらためて明示し、従業員が「OKIグループ資材調達方針」などに基づいて判断・行動できるよう教育を徹底することで、パートナーシップのさらなる強化に努めてまいります。

OKI パートナーシップ構築宣言 <https://www.biz-partnership.jp/declaration/68-05-22-tokyo.pdf>